

第2回

イマドキの子どもの なりたいたい職業とは？

今回は、第1回でも扱った、親子パネル調査の中から、
子どものなりたいたい職業の有無や内容に関するデータを取り上げます。
学校段階による違いや時代による変化を捉え、それらの要因を探ってみます。

高学歴化が影響？

子どもに将来なりたいたい職業があるかを尋ねたところ、「ある」と回答した比率は、小学5年生をピークに(69.3%)、中学3年生まで低下し(44.4%)、高校生では上昇するものの、高校3年生でも57.5%と小学生より低い傾向が見られた(図)。性別で見ると、すべての学年で女子の方が男子に比べ「ある」の比率が15ポイント程度高い。

過去に、ベネッセ教育総合研究所で実施した「子ども生活実態基本調査」で同様の質問をした結果では、2004年に比べ2009年は、将来なりたいたい職業が「ある」と回答した比率が減少し、特に高校1年生と高校2年生の減少幅が大きかった(約16ポイント)。今回の調査と単純比較はできないが、小学生の方がなりたいたい職業が「ある」と答えた比率が高く、中高生になると低くなる傾向は変わらなかったと言える。

大学進学率が高くなった今、子どもたちは、高校までに職業について考えたり、職業を選択したりする必要性をあまり感じなくなったのかもしれない。実際、今回の親子パネル調査でも、子どもの希望する進学段階となりたいたい職業の有無との関連性を見たところ、中高生では、大学を希望する人がそうでない人に比べ、「ある」の比率が低い傾向が見られた。

しかし、将来の進路についての計画がないまま進学するのは、果たしてよいことであろうか。将来の職業を含めた進路について考えることは、学習の動機づけにもつながり、さらに学ぶことの目的を明確にする上でも重要だと考える。

小学生では上位の人気職業は不動

次に、将来なりたいたい職業が「ある」と回答した子どもに、具体的な職業名を書いてももらった。

まず、小学4年生～6年生のランキング(表1)を見ると、男子では、「サッカー選手」「野球選手」、女子では、「ケーキ屋・パティシエ」「保育士・幼稚園の先生」が上位を占め、不動の人気を誇る職業となっている。また、男子では「学校の先生」「建築家」、女子では「医師」が2009年から順位を上げる一方で、男子の「タレント・芸能人」は7位から19位へと大きく順位を下げた。他方で、女子の「タレント・芸能人」は依然として上位をキープしている。

中学生は医療系職業の人気が上昇

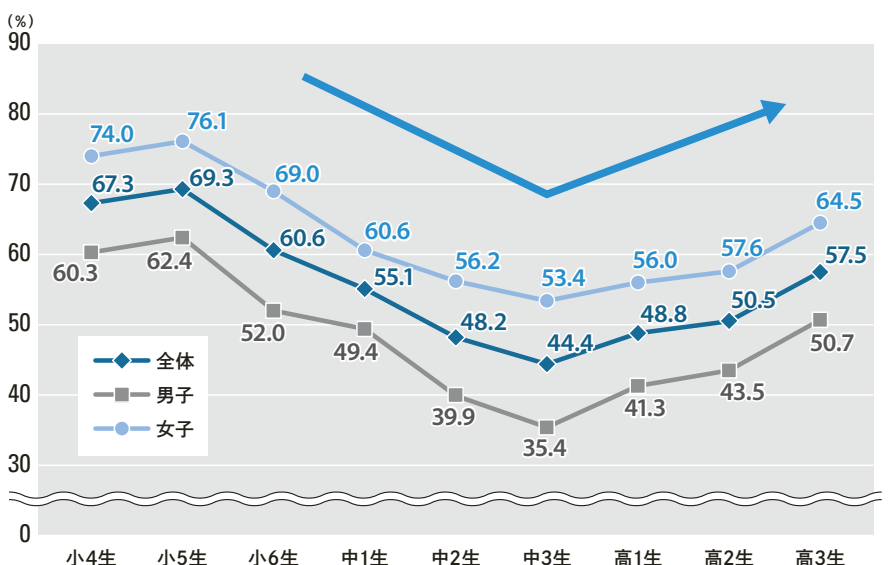
中学生の男子を見ると(表2)、「学校の先生」が2015年では1位となり、「サッカー選手」が2位をキープ。「医師」「研究者・大学教員」は2009年より順位を上げている。中学生の女子では、「保育士・

幼稚園の先生」が1位をキープする一方で、「看護師」「医師」「薬剤師」など医療系の職業が2009年から軒並み順位を上げた。他方で、男子では2009年に1位だった「野球選手」や3位の「タレント・芸能人」、女子では2位の「タレント・芸能人」や3位の「ケーキ屋・パティシエ」が上位から脱落している。

今回の調査からは、時代が変わっても、小・中学生の人気職業は大きくは変わらない一方で、数年前に比べ、特に中学生では比較的安定した職業や、より身近に感じられる職業を選ぶ傾向が強まっているという特徴が見られた。また、ランク外ではあるが、今回の調査では「YouTuber(ユーチューバー)*」のような10年ほど前にはなかった職業名も出現し、時代の変化を感じたことも付け加えておきたい。

1 将来なりたいたい職業がある中高生は4～6割弱

図 子どものなりたいたい職業の有無(小学4年生～高校3年生・性別)



注) 数値はなりたいたい職業が「ある」と答えた子どもの比率。

*動画投稿サイト「YouTube」に動画を投稿して生計を立てるクリエイター。

「子どもの生活と学びに関する親子調査 2015」

東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が共同で立ち上げた「子どもの生活と学び」研究プロジェクト（親子パネル調査）の第1回調査（調査時期／2015年7～8月）。小学1年生～高校3年生の親子約2万1000組に調査し、子どもの成長のプロセスや成長に必要な環境・働きかけを明らかにする。今後、毎年調査を行う予定。

◎詳細は下記ウェブサイト（プロジェクトの進行状況）をご覧ください。
<http://berd.benesse.jp/special/childedu/>

ベネッセ教育総合研究所
 初等中等教育研究室長・
 主任研究員

邵 勤風 しょう・きんふう



初等中等教育領域を中心に、子ども・保護者・教員対象の意識や実態に関する調査研究を担当。子どもの発達を踏まえ、学びの連続性を保障するための適切な環境のあり方に関心を持っている。

2 今も昔もスポーツ選手やケーキ屋が小学生の人気の職業

表1 小学4年生～6年生のなりたい職業ランキング（性別）

2015年順位	男子	%	2009年順位	2015年順位	女子	%	2009年順位
1位	サッカー選手	15.7	2位	1位	ケーキ屋・パティシエ	10.3	1位
2位	野球選手	9.5	1位	2位	保育士・幼稚園の先生	9.3	2位
3位	医師（歯科医師を含む）	5.7	3位	3位	医師（歯科医師を含む）	5.7	6位
3位	研究者・大学教員	5.7	4位	4位	タレント・芸能人	5.6	3位
5位	ゲームクリエイター・ゲームプログラマー	4.7	4位	5位	看護師（助産師・保健師を含む）	5.3	4位
6位	大工	3.2	4位	5位	デザイナー・ファッションデザイナー	5.3	5位
7位	学校の先生	2.8	13位	7位	学校の先生	5.1	9位
8位	建築家	2.7	17位	8位	マンガ家・イラストレーター	3.4	7位
9位	警察官	2.4	11位	9位	動物の訓練士・飼育員	3.2	11位
10位	電車（運転士・車掌など）	2.3	11位	9位	薬剤師	3.2	14位
11位	調理師・コック	2.0	9位	11位	獣医師	2.4	15位
12位	テニス選手	1.9	圏外	12位	美容師・理容師	2.1	7位
13位	消防士	1.8	圏外	13位	研究者・大学教員	1.6	圏外
14位	公務員（学校の先生・警察官などは除く）	1.6	圏外	13位	ダンサー	1.6	圏外
15位	動物の訓練士・飼育員	1.5	圏外	13位	飲食店主・店員	1.6	圏外
16位	水泳選手	1.4	17位	16位	パン屋	1.5	圏外
17位	パイロット・航空管制官	1.3	17位	17位	ネイル・メイクアーティスト	1.3	圏外
17位	マンガ家・イラストレーター	1.3	14位	17位	アナウンサー	1.3	圏外
19位	宇宙関連	1.2	圏外	17位	花屋	1.3	圏外
19位	タレント・芸能人	1.2	7位	20位	警察官	1.2	16位
				20位	作家・小説家	1.2	17位

3 より現実的で、身近な職業を選ぶ中学生

表2 中学生のなりたい職業ランキング（性別）

2015年順位	男子	%	2009年順位	2015年順位	女子	%	2009年順位
1位	学校の先生	8.4	4位	1位	保育士・幼稚園の先生	11.1	1位
2位	サッカー選手	7.7	2位	2位	看護師（助産師・保健師を含む）	8.9	4位
3位	医師（歯科医師を含む）	5.0	6位	3位	学校の先生	7.2	9位
4位	研究者・大学教員	4.4	6位	4位	医師（歯科医師を含む）	6.5	10位
5位	ゲームクリエイター・ゲームプログラマー	4.0	9位	5位	薬剤師	5.0	11位
6位	公務員（学校の先生・警察官などは除く）	3.8	6位	6位	タレント・芸能人	4.8	2位
7位	野球選手	3.5	1位	7位	マンガ家・イラストレーター	3.2	5位
8位	警察官	2.6	12位	8位	ケーキ屋・パティシエ	2.9	3位
9位	建築家	2.2	13位	9位	動物の訓練士・飼育員	2.5	7位
10位	薬剤師	1.9	15位	10位	公務員（学校の先生・警察官などは除く）	2.2	圏外
11位	調理師・コック	1.7	5位	11位	語学関係・国際関係	2.0	圏外
11位	電車（運転士・車掌など）	1.7	16位	12位	デザイナー・ファッションデザイナー	1.7	6位
13位	法務職（弁護士・裁判官・検察官など）	1.6	圏外	12位	研究者・大学教員	1.7	圏外
13位	コンピュータ関連（プログラマー・システムエンジニアなど）	1.6	10位	14位	学芸員・司書	1.6	圏外
15位	会社員	1.4	13位	14位	美容師・理容師	1.6	7位
16位	消防士	1.3	圏外	16位	栄養士	1.4	18位
16位	宇宙関連	1.3	圏外	17位	客室乗務員（キャビンアテンダント）	1.3	15位
18位	動物の訓練士・飼育員	1.2	19位	18位	獣医師	1.2	13位
18位	デザイナー・ファッションデザイナー	1.2	圏外	18位	調理師・コック	1.2	19位
18位	タレント・芸能人	1.2	3位	20位	ダンサー	1.1	圏外
18位	自動車修理・整備	1.2	16位				

注) 将来なりたい職業名を具体的に書いてもらった結果を分類して作成した。明確な職業名に分類できないものは除外している。また、比率(%)は、なりたい職業名を書いた人のみを母数としている。
 * 2009年のランキングはベネッセ教育総合研究所「第2回子ども生活実態基本調査」のデータを使用。親子パネル調査と経年比較できるように設計ではないため、単純比較はできない。職業名の表現は、調査年によって若干異なる場合がある。